



令和7年12月15日 本校



チームたかとく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -本校 職員会議資料⑤-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう! 幸せにしよう!～

上 松 武

■「挨拶(あいさつ)」の大切さ

- ・「〇〇さん、おはようございます!」と子どもたちに挨拶すると、必ず元気よく「おはようございます!」と返してくれます。朝からとても元気になります。子どもたちと交わす挨拶には、不思議なパワーがあると毎日感じています。
- ・児童生徒玄関や校舎内で、保護者の方々とお会いする時にも「おはようございます。いつもありがとうございます!」などと挨拶しますと、「おはようございます」と返してくださるので、とても嬉しくなります。
- ・挨拶はコミュニケーションの始まりと言われますが、全くそのとおりだと思います。
- ・例えば、「〇〇さんのお母さん、おはようございます。」と挨拶した勢いで、「〇〇さん、毎日の係のお仕事で職員室に来た帰りに、必ず校長室をのぞいてくれるんですよ」と最近の出来事をお話します。すると、「そうですか～」とニコリしてくださるので、私はほっこりした気持ちになります。
- ・ほっこりついでに、その時のお子さんの様子を続けてお話すると、「家では、□□なんですよ～」とお子さんのご家庭での意外な一面を聞くことができたりします。
- ・「挨拶(あいさつ)」の語源にはいろいろあるようですが、その一つに仏教の禅宗の「一挨拶(いちあい いっさつ)」(相手の悟りの深さを言葉で探り合う)に由来し、「心を開いて相手に近づく」という意味合いがあると言われています。
- ・毎日同じ人と出会うこともあれば、この一度きりの出会いとなることもあります。その時々のお出合いは「一期一会」、その出合いを大切な時間とするのが挨拶です。
- ・誰と、いつ、どこで出会っても、「あなたとここで出会えてよかった」と思ってもらえる挨拶を、私たち大人が手本となって、これからも実践していきましょう。



■地味な仕事ほど大切 ～高等部 作業学習から～



- ・校内実習・現場実習の期間が終わった翌週のある日、高等部の作業学習の様子を見に各教室をのぞいていました。
- ・ある作業班では、実習期間中に地元の事業所から依頼された商品のラベルを10枚一束にして、それを10束にまとめる作業に黙々と取り組んでいました。とても分かりやすい仕事なので、自分で考えて、先生と相談してやりやすい方法を工夫する生徒もいました。とても地味ですが、10束ずつにまとめることで他の人が助かります。すなわち、他の人の役に立ちます。
- ・社会には数えきれないほどの様々な「仕事」があります。今の世の中、自分に都合のいいように理由をつけて、仕事を選び好みしている傾向にあると感じてなりません。どんな

仕事にも「やってもらって助かった」と感謝され、人の役に立った喜びを味わうことができます。

- ・高等部や中学部の作業学習の意義がそこにあると私は思っています。地味な仕事で、こんな仕事をやって意味があるのかと思う人がいたら、「**地味な仕事ほど大切なんです。人から感謝され、役に立った喜びを味わえるからです。**当校の生徒たちは、そのような仕事にも一生懸命に取り組んでいます。すごいんです。」と私は説明します。「仕事」の内容だけではなく、その「仕事」の価値をもっと発信し、知っていただきたいと思います。

■地域の力はすごい！

①「エンジョイタイム」(中学部・総合的な学習の時間)



- ・中学部では、この時期に寺町一丁目町内会の「ふれあいクラブ」の皆様を毎週水曜日にお招きして、一緒に学習しています。今年度は11月19日(水)から12月17日(水)までの5回、「かがくサークル」「ことばサークル」「ものづくりサークル」「あそびサークル」の4つに分かれて活動しています。
- ・12月3日(水)は2回目のエンジョイタイムでした。

「かがくサークル」では…

普段教室で集中して学習に取り組むことが苦手な生徒が、講師の上越科学館のその道のプロの話もしっかりと聞きながら、ふれあいクラブの方とスライム作りに取り組んでいました。液体を混ぜ合わせると柔らかく固まっていく様子に興味津々。ふれあいクラブの方とも、「こんな感じでいいですか」と自分から丁寧な言葉で聞きながら、混ぜ合わせ具合を一緒に調整していました。授業の終わりには、「もっと、スライム、つくりたい！」と大満足の表情。Good Job です！

「あそびサークル」では…

昔遊びの『だるまさんが転んだ』を歓声を上げながら楽しんでいました。ここでも生徒の新たな一面を発見することができました。集団の中に常になかなか入れず、辺りを動き回っていることが多い生徒が、「だるまさんが…」の間に静かに動いて、「ころんだ！」でピタッと止まり、捕まった友達や先生を助けようとしていました。この姿に感動です！ Good Job ですね！

- ・『だるまさんが転んだ』やスライム作りなどの活動を通して、友達や地域の方と一緒に活動でき、関わることでできた楽しさを味わえている姿を見て、地域の方々に感謝です。

②ご当地ヒーロー「ガンギ」と遊ぶ(小学部・特別活動)

- ・普段なかなか見たり触れたりすることできないヒーローショーが実現しました。上越のご当地ヒーロー「雷轟纏装ガンギ」が「子どもと一緒に遊べるヒーロー」として、小学部の子どもの前に現れました！
- ・初めて見る、動く大きな着ぐるみが苦手な子どもがいます。当日もガンギの姿を見て、体育館に入れなかったようですが、ガンギと友だちが遊んでいる姿を、体育館の中に入って見ることでできたそうです。こちらも Good Job ですね！

○先回のたよりで、教室で学んだことを校外で確かな学びにすることの大切さに触れました。教室で学んだことをさらに深めるために地域のその道のプロから来ていただき、教

えを乞うことを、当校はかなり実践していると私は思っています。

- 地域で学びを広げるとともに、寺町ふれあいクラブの方々や「ガンギ」のように、地域の
方々からドンドン学校に来ていただき、一緒に授業を創る教育を進めている先生方に感謝
です。そして、このような教育活動が「学校づくりは、まちづくり」につながっており、「たかと
くの教師集団」を大変誇らしく思っています。 Good Job! I'm proud of yours!

■「主体的」とは、まさにこのことですね ～小学部3年生図工の学習から～

- ・みなさんは「主体的に」という言葉を聞いて、どんな姿を想像しますか。私は、次のような
気持ちで取り組もうとしている姿を想像します。

■はやくやってみたい	■なんでかな…ふしぎだ…
■〇〇するとできるんじゃない	■それって、ほんとうかな…
■〇〇さん、すご〜い! 〇〇さんみたいになりたい(やってみたい)	

- ・先日、小学部3年生の図画工作の授業を参観しました。教室にはたくさんの先生方が参観
に来ていましたし、絵具やスポンジ、スプレーにボンドと何やら楽し気なことが始まり
そうな雰囲気が漂っていました。
- ・子どもたちの中に、もう興味津々で絵具に触っては椅子に座るように言われ、でもスプレ
ーに触りたくて席を離れる、そんな児童がいました。
- ・その授業は、前の時間に自分たちで作ったクリスマスツリーの飾りを作る学習でした。
作る手順を先生が示します。その児童はよ〜く見ています。時々自分からやろうとして
しまいます。①丸い台紙にボンドを垂らして広げる、②その上に塩を振りかける、③塩を
振り落とす、④絵具の色を選んでスプレーやスポイトなどで垂らす、という手順で完成
です。
- ・その児童は、先生と一緒に手順に従って制
作し、2つ目、3つ目を椅子に座り、立ち上
がることなく自分で完成させました。
- ・この児童にとって、「塩に絵の具、そしてボ
ンドを使っていいなんて、超うれし〜い」
といった、まさに楽しくて仕方がない活動
だったに違いないと思いました。作ること
が好きで、いろいろな道具にも興味があるといった特徴を十分に把握し、普段馴染みの
薄い「塩」を教材として使うという教材研究が実を結んだ授業でした。
- ・「主体的」や「対話的」など一見便利な言葉のようですが、その意味を私たちが「目の前
の児童生徒にとっての主体的に、とは? 対話的に、とは?」と突き詰めて考えないと、子
どもたちの学びは浅いものになってしまうことを、この授業から学びました。
- ・『抽象的なことほど、具体的に』、このことを今まで以上に突き詰めながら授業改善を進め
ていきましょう。



■「会長賞」を受賞!

- ・新潟県特別支援学校校長会主催の「令和7年度いじめ見逃しゼロ標語・ポスターコンク
ール」において、中学部1年生の共同作品が会長賞に輝きました。
- ・「やさしいことばのピース」というフレーズ、とてもいいですね。その時の相手の気持ちを
しっかりと考えたり、その時の場面に合った使い方を考えたりしながら一つ一つの言葉



を使えると、みんなが笑顔になります。争いのない平和（ピース）な社会になります。

- ・157名の「たかとく」の仲間が、いつでも、どこでも、誰とでも、優しいことばのピースをしっかりと考えながら行動していくことを期待しています。

■書籍の紹介

- ・冬休みに入り、少しまとまった時間があると思うので、2つ紹介します。
- ・1つは『ムーちゃんと手をつないで』（みなと鈴著・秋田書店）というマンガです。障がいを抱えて生まれてきた我が子に両親がどんな気持ちで向き合って、どんな苦悩を経て小1の春を迎え、どう学校生活を送り始めたかが当事者目線で描かれています。当校に入学・進学を決められた保護者とお会いする時、その保護者の気持ちを考えながら誠心誠意対応しなくてはいけないことに気付かされます。校長室前の書籍コーナーに置いておきます。ご自由に、御覧ください。
- ・2つめは『問いかけの作法』（安斎勇樹著・ディスカヴァー・トゥエンティワン）という書籍です。私は、先生方や保護者の皆さん、地域の方々と「学校づくりは、まちづくり」を具体的に進めていきたいと思っています。そのためには何が必要なのかと考えた時、自分なりの答えの一つが「問いかけ」でした。自分一人の考えだけではなく、先生方の考えを聞きながら学校経営をしていきたい。では、どう問いかければ、先生方や保護者のお知恵をいただけるのか。その答えがこの本にあるように思えます。

Amazon ホームページより引用→

